

# 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業報告書

学校名「熊本県立熊本支援学校」

住所：熊本市中央区出水5丁目5番16号

電話：096-371-2323

## I 学校の基本情報

○児童生徒数：291人（49学級）  
小学部74人、中学部76人、高等部80人  
高等部東町分教室61人  
平成29年12月1日現在

○職員数：139人

### ○過去の主な災害

昭和28年 熊本大水害  
平成11年 台風18号による高潮被害  
平成15年 集中豪雨による土砂災害  
平成24年 熊本広域大水害  
平成28年 熊本地震

## II 取組の概要

### 1 安全教育手法の開発・普及

#### （1）学校防災教育年間計画について

期日	児童生徒の主な学習活動
7/11～7/19	引き渡し訓練（児童生徒、保護者）
8/25	仮設団地ボランティア活動
9/25	地震火災避難・消防訓練
10月	小学部4年「防災訓練をしよう」
10月～	高等部1年「防災バッグの中身を
11月	知ろう」「非常食を食べてみよう」 高等部3年「身近なもので防災道具をつくろう」
10/19	東町分教室地震火災避難訓練
10/23	中学部2年「消防署見学」
11/1	熊本シェイクアウト訓練
1/17	シェイクアウト訓練

熊本県教育委員会から出された学校防災（地震・津波）マニュアルを参考に年間計画を作成した。昨年まで行ってきた学習や訓練に、今年度新しく取り組む活動を入れて計画的に行った。各教科等における学習を訓練と関連付けて行うようにし、年間計画に位置付けて実施した。

#### （2）緊急地震速報受信システム等を利用した避難訓練の実施

緊急地震速報受信システムの音源を聞くと熊本地震時のことを思い出し、パニックを引き起こす児童生徒がいたため、音源CD等を使っての避難訓練を控えた。しかし、緊急地震速報受信システムの音源を利用することで、より早く、より安全に自分の身を守ることができるとの観点から、事前学習を十分に行った上で、緊急地震速報受信システムの音源を使用することとし、熊本シェイクアウト訓練を実施した。

#### ア 事前学習

小学部・中学部  
高等部それぞれの  
学部で発達段階に  
あわせた事前学習  
を行った。中学部



では、学部全体でシェイクアウト訓練時の3つの安全行動「まず低く、頭を守り、動かない」を確認した後、音源CDを小音量から徐々に大きくしていき、音に慣れるようにした。

#### イ 緊急地震速報受信システムの音源を利用したシェイクアウト訓練

計2回実施（11月、1月）。

（ア）11月1日（水）10時00分～

各学部通常  
授業を行っている時に、校  
内放送により、  
緊急地震速報



受信システムの音源を流し、児童生

徒は放送を聞き、担任の指示のもと、3つの安全行動を行った。

(イ) 1月17日(水) 11時00分～

11月同様に、各学部通常授業を行っている時に訓練を行った。前回と時間が異なり、活動場所が違っていたが児童生徒は落ち着いて、3つの安全行動がとれていた。



### (3) 児童生徒引き渡し訓練の実施について

7月11日(火) 中学部2・3年、12日(水) 小学部高学年、高等部、14日(金) 小学部低学年、19日(水) 中学部1年の授業参観日に児童生徒を保護者に引き渡す訓練を実施した。

各学部の引き渡し場所に迎えに来られた保護者に、免許証を提示していただき、事前に提出してある引き渡しカードと照合して引き渡しを行った。

引き渡しの流れについては、職員が事前にシミュレーションをしていたことでスムーズに行えた。

## 2 被災地支援を通じた体験型防災教育の推進

### (1) 仮設団地ボランティア活動

8月25日(金)に本校高等部2・3年生16人と教諭3人で益城町馬水地区仮設団地に行き、駐車場周辺の除草作業や「みんなの家」の清掃活動を行った。



#### [実施後のアンケートから]

「ボランティア活動を通して学べたことはありましたか。」の質問に対しては、16人中5人が「おおいにあった」、11人が「すこしあった」と答えた。具体的には、「ボランティア活動の楽しさ」

(9人)、「人の思いに応じた対応」(6人)、「仮設住宅の人との関わり方」(3人)だった。「ボランティア活動を行う時に大切にすることはありますか。」の質問に対しては、6人が「おおいにあった」、10人が「少しあった」と答えた。具体的には、「積極的コミュニケーション」(7人)、「相手の状況」(5人)、「相手の立場」(4人)だった。「自ら進んでボランティア活動ができたか。」の質問に対しては(6人)、「おおいにできた」(10人)が「少しできた」と答えた。「今日学んだことを今後どのようにいかしていきますか。」の質問に対しては、「これからも自分で進んで取り組みたいと思う。」や「今年で卒業するのでこれを生かして、社会人として頑張りたい。」「今後の学校生活で今日学んだことを生かしていきたい。」「2学期の勉強や作業に生かしていきたい。」「コミュニケーションが大切だと思った。」などの感想があり、ボランティア活動を通して生徒が主体的に行動する様子や意欲的に作業する姿が見られた。また、この経験を今後の自分の生活に生かそうとする思いも現れていた。

### 3 学校安全(防災)アドバイザーの活用

学校安全アドバイザーには以下のような場面で専門的なアドバイスをいただいた。

#### (1) 災害発生時(大地震)児童生徒引き渡し訓練

7月19日(水) 中学部1年生の引き渡し訓練に、本校の学校安全アドバイザーが参観しました。反省会では、保護者に避難先の確認をしたこと、免許証を使った身分照合などを評価していただいた。

#### (2) 地震火災避難訓練

9月25日(月) 地震火災避難訓練を学校安全アドバイザーが参観し、指導助言をいただいた。

「発災後は、何人かで安全を確認すること」

「パニックになった時の様子も分かるので、ベルを鳴らして訓練しても良いのではないか」とのご意見をいただいた。

### (3) 職員防災対応研修

10月26日(木)学校安全アドバイザーを講師にお迎えし、「教職員として身に付けてほしいこと」との演題で御講演を頂いた。一番大事なことは、「自分の命は、自分で守る」こと、そのために、知識を得て、備蓄や防災用品の準備をするとともに、訓練を繰り返す大切さを再認識した。また、防災用具も紹介していただき備蓄の際の参考になった。注意点として、飲料水等は500ml等の小さい容器で分けて準備したほうが良いことなど衛生面からの視点も教えていただいた。

## III 取組の成果と課題

### 1 安全教育手法の開発・普及

#### (1) 成果

ア 地震時に放送設備が使えなくなった状況を考えた避難訓練を実施したことで、状況の変化に対応した最善の方法を考えることができた。

イ 緊急地震速報受信システムの音源を活用して、熊本シェイクアウト訓練を実施することで、児童生徒が音源を聞いても落ち着いて行動する体験を積むことができた。

ウ 災害発生時(大地震)の児童生徒引き渡しの流れについて保護者へ通知し、訓練を行うことで、保護者と引き渡しに係る打ち合わせを行い、安全で確実な引き渡しについて確認することができた。

#### (2) 課題

ア 防災教育を継続的に取り組むため、年間計画にどのように位置付け、実践していくか検討していきたい。

イ 防災グッズ(備蓄バッグや防災頭巾)を活用した防災教育の取組を行う必要が

ある。

ウ 現在も交流及び共同学習や学園祭等で地域との交流を図っているが、今後地域住民と顔の見える関係づくりをより一層進めていきたい。

## 2 被災地支援を通じた体験型防災教育の推進

### (1) 成果

ア 仮設団地におけるボランティア活動を高等部生徒が体験することで、自分にできることを考え、活動することができた。

イ 「これからの学校生活や卒業後の生活にもこの体験を生かしていきたい」「将来積極的にボランティア活動に参加したい」という前向きな感想が聞かれた。

### (2) 課題

ア 仮設団地内の清掃作業が中心となり、仮設団地で生活されている方々との交流を図る時間が取れなかった。

イ 教師側で計画した活動になってしまい生徒自身にどのような活動をしたいか、必要だと思うかなど主体的に活動を計画する機会が持てなかった。

## 3 学校安全(防災)アドバイザーの活用

### (1) 成果

ア 児童生徒引き渡し訓練後や地震火災避難訓練後の反省会で専門的な御意見を伺うことができ、今後の訓練を行う上でも参考となった。

イ 職員向けの防災対応研修で講話を聞き日頃から防災意識を高めることの必要性を再認識することができた。

### (2) 課題

ア 防災士などの専門性が高い方に訓練の計画段階から意見を頂くと良かった。

イ 防災について防災主任以外の職員との意見交換の機会を準備し、より一層の防災意識の向上へつなげると良かった。